



地本大会開催

JR東労組東京地方本部 第36回定期大会

中山執行委員長のもと、新執行部を確立

若き仲間を最先頭に困難を切り拓き

安全第一・現場第一主義を貫き、人間尊重の 健全な職場を全組合員の手で構築しよう！

東京地本は6月23日、滝野川会館において「第36回定期大会」を開催し、1年間の運動を総括し、向こう1年の運動方針を17名の代議員の発言で肉付けし、満場一致で確認しました。

19春闘では6年連続のベアを獲得するも、所定昇給額が用いられる結果となりました。春闘を最先頭でけん引してきたリーダーからは正しい事実経過に踏まえた総括議論を尽くし、20春闘に向けての議論を全組合員で作り出していくことが語られました。

JR東日本会社とグループ会社では人権侵害の脱退強要等の不当労働行為が蔓延し、命の危険に結び付く深刻な安全問題となっています。不当労働行為は違法行為であり、直ちに根絶しなくてはなりません。労働委員会や社会への発信等、あらゆる手段を尽くして事実を明らかにすることが職場からの意見として、強く要請されました。

組合員は厳しい状況でも歯を食いしばり、組織に期待を寄せています。『変革2027』に基づく様々な効率化施策や業務問題はもとより、36協定締結等、労働者の安全と健康に関わる問題は、労働組合でしか解決できません。職域支部や部会からも多くの発言が出されました。

時代が変わり、大きな転換点を迎えようとしている今、労働組合の真価が問われています。東京地本は中山執行委員長のもと新執行体制を確立しました。これからも安心して働ける健全な職場を取り戻し、JR東労組の再結集と再構築に向けて奮闘します！